

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700540		
法人名	有限会社そうせい舎		
事業所名	グループホームあつたか宝来館		
所在地	稚内市宝来2丁目2-19		
自己評価作成日	H29年8月18日	評価結果市町村受理日	平成29年9月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0176700540-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出から帰って荷ほどもそこそこに「アー我が家が一番」と大きくのびをした事ありますよね。
あつたか宝来館は、利用者さんにとってそんな「我が家」でありたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット(定員:8名)のアットホームなグループホームで、勤続年数の永いベテラン職員が多く在籍していて馴染みの関係を築き、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援していると共に毎月、家族の家庭を訪問して日常生活の様子や健康状態等を報告したり、意向や要望等を聞く機会を設けるなど本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築くよう取り組んでいる。
地域との交流・連携では、地元高校の実習や専門学校生の体験学習、地域の医療法人の看護師の研修の受け入れなど事業所の持つ機能を地域に活かしたり、地域の保育園児の慰問や町内会主催の津波・自然災害時の避難訓練参加などで地域の人々との交流や連携に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも笑顔で、明るく楽しく、いつも寄り添ってを理念の骨子に掲げ職員が共有し日々のケアにあたっている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を職員で話し合いつくり上げ、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域の人から「あったかさん」と呼ばれごく普通に地域活動に参加し交流している	地元高校の実習や地域の医療法人の看護師の研修の受け入れなど事業所の持つ機能を地域に活かしたり、地域の保育園児の慰問や町内会主催の避難訓練参加などで地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に係る会のお知らせを掲示、配布している。介護全般に亘る相談にも出来るだけ応じている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催は出来ていない。会議では現況報告等を行い委員との意見交換をしている	運営推進会議では、現況報告や活動内容、実地指導の結果等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。今後は、定期的開催に向けて協力体制づくりを話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広報紙を送り毎月の様子をお知らせしている。市主催の会を地域の方へお伝えしている	市担当者及び包括支援センターとは、地域ケア会議や定例の研修会参加で情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分がされたら嫌な事を利用者さんにはしない事を職員の共通理解としている。生じるリスクはご家族にお伝えし理解して頂いている	ミーティングや内部研修会開催等で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待禁止は当然の事として心理的虐待が起きない様に職員は言葉づかいや仕草に気をつけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会なく職員の理解度が深いとは言えない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時には一方的に説明するのではなく項目ごとに十分な説明をし、理解、承諾頂ける様こころがけている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方が気軽に話せる環境、雰囲気づくりに努めている	毎月、家族への家庭訪問や来訪時に日常生活の様子や健康状態等の情報を提供し、意向や要望等を言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内研修時に運営状況や方針を報告し、職員の意見や提案を聞いている	個人面談の実施や内部研修会開催などで、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に社内研修を行い法人理念の浸透や介護技術の向上を図っている。ヨガなども取り入れ職員の腰痛予防、健康増進に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域ケア会議グループホーム部会を企画し包括支援センターと開催している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の場が変わる事への不安を持たれる方が多いが普段と変わらない接しかたをする事でホームに馴染んで頂ける様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望には出来るだけ副う様に努めている。初期には出来るだけ会いに来られるようお願いしご家族にもホームの実際を知って頂く様図っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等のその時必要な支援は入居することで、円滑に入居出来るよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者さんを人生の先輩として敬いながら、親しくまじ合える関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に終末期にあたってはご家族の思いを優先している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば馴染みの場所への外出を支援している。面会時間に制限を設けずいつでも気軽に立ち寄れるようにしている	散歩や買い物、町内会のお祭り参加や北門神社祭見物などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数が四六時中顔を合わせているため諍いの起こる事もあるが職員が早期に察しフォローしている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了(看取り)後、ご家族から相談を受ける事もあるが、実際として疎遠になってしまっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さん個々の希望、意向を把握し出来る事であれば実現するよう努めている	ミニカンファレンスの実施や日常の引き継ぎノートを活用して、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、職員間で情報を共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は概略を知る程度。信頼関係が出来てから本人との会話の中でこれまでの事をお話し頂ける様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕に日勤者、夜勤者のミニカンファレンスで一人ひとりの状態、トピックスを申し送っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は出来るだけ本人、ご家族から思いや希望をお聞きし計画に反映するようにしている	本人・家族の意向や要望、医師及び看護師からの指導や助言、モニタリングや日常業務を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画となっている。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は介護計画に副って記入している。別にノートがあり気づきや工夫、出来事の詳細などはそのノートに書き込むようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化が進み訪問看護ステーションと契約を結んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会有志による花壇作りがあり、花好きの利用者さんたちが眺めて楽しんだり、こっそり摘んできてはホールに飾って楽しむことが出来ている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院を継続するようにしている。重度化が進み通院が困難と思われる時はご家族と話し合い、往診してくれる医院に切り替えている	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護の利用、通院への支援や日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時も訪問看護師の看護、助言を受ける事が出来、利用者さん、職員が安心して暮らしせるようになっていく		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は毎日職員が見舞いに行き本人の様子を把握出来るようにしている。その際看護師から治療情報を得る様にしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期指針を説明しご家族の意向を伺っている。	ターミナルケアを実践している。また、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急救命講習を受けていない職員もいて、応急処置や初期対応の実践力を全ての職員が身につけているとはいえない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち会いの下、火災避難訓練を実施している。地域の災害避難訓練に参加し相互に協力しあうことを願っている	町内会主催の津波・自然災害を想定した避難訓練の参加や消防署、地域の協力のもと年2回の昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。また、停電に備えて発電機を備えている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりに敬意をもって接し、言葉づかいや言葉かけで誇りや尊厳を損ねる事のない様配慮している	内部研修会開催や外部研修会参加等で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が指示や決定することなく利用者さんの判断や決定を出来るだけ尊重するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事時間等、特に決めておらず個々の体調や気分でその日を過ごせる様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際の装いや化粧を本人が楽しく思える様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出前を取ったり、外で焼肉をしたり食が楽しみになる様工夫している。毎食前に嚥下体操を行っている	水分・食事摂取量、摂取カロリーを把握している。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や片付けをしたり、時には外食や出前など食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分表をチェックし個々に応じた量が一日を通じて摂れるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりがそれぞれの力に合わせ歯ブラシ、洗口液、口腔ケアブラシなどで口腔ケアしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導時の声かけは自尊心を傷つけない様配慮し、移動が出来る限りはトイレで排泄する様支援している	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄表で把握し、誘導や声かけ等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師に相談し便秘薬の調整をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	1週2回以上は入浴するようにしている。本人が強く拒む時は無理強いない。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2回以上の入浴を目安に個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	下肢にむくみのある利用者さんや入浴後疲れている様な時はさりげなく休息の声かけをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時かかりつけ薬局から内容等について説明を受けている。個々にあわせ、錠剤、顆粒と形状を変えて処方してもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん一人ひとりの今出来る事、今楽しい事を探り提供するように努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員で出かける事は難しくなっている。受診の帰りにあちこち寄ってくることもあるがその日急に要望されてもすぐに対応出来ないこともある	散歩や買い物、畑仕事や足湯に出かけたり、北門神社祭見物やドライブしながらの桜見物など戸外へ出かけられるよう支援している。また、保育園児の慰問を受けたり、高校生や専門学校生の実習生の受け入れで子供たちとの交流の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はご家族から委任され預かり金としてホームで管理している。お金を所持している方もいるが買い物は職員に頼み本人が支払う事はない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物のお礼の電話はするように努めているが本人が番号することなく職員がコールしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物も古くなってくすんで来たが清潔である様に努めている。節句には飾り物で季節感を採り入れている	共用空間には、清潔感が漂い、季節ごとの飾り付けや行事参加の写真が飾られるなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用のソファや長ソファがあるが利用者さん同士はもっぱらテーブル席でお喋りしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉢植えや故人の写真にお供え物をしたりと居室には本人の自由にまかせている。要望があればのれんをかけたたり手すりをつけたりしている	居室には、鉢植えや慣れた家具等の馴染みの品々が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あちこち狭いが利用者さん同士で譲り合ったり車椅子を優先したりとそれなりに暮らしている		

目標達成計画

事業所名 グループホームあつたか宝来館

作成日: 平成 29 年 9 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	34	重度化が進み誤嚥、転倒のリスクが大きくなる中、そうした急変事態への対応実践力に欠ける	すべての職員が応急処置や初期対応の術を身につけ急変時や事故発生時に迅速、的確に対応できる	救急救命講習を定期的に行き全ての職員が受講する。実践力を維持するため日頃から講習内容を反復して行く	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。